

日本緩和医療学会 第7回東海・北陸支部学術大会 見どころ その2

いよいよ日本緩和医療学会 第7回東海・北陸支部学術大会まで、あと50日になってきました。

今大会の見どころ第2弾をまとめましたので、ご覧下さい。

その他に38題の優秀・一般演題、3つのランチョンセミナーを企画しております。

事前参加登録は8月8日（金）までとなっております。

直前・当日参加の参加費は1000円値上がりとなりますので、是非お早めに事前参加登録をお願いします。

日本緩和医療学会 第7回東海・北陸支部学術大会

大会長 石黒 崇（岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科 緩和医療センター）

<https://www.k-gakkai.jp/jspm7thtokaihokuriku/>

教育講演 「緩和ケアにおける初診時の評価」

緩和医療・ケアを行うにあたり、「アセスメント（評価）」をしてから「マネジメント（治療・ケア）」を行う事は、誰もが疑問を持たないはずです。

適切なアセスメントが出来ていなければ、適格なマネジメント出来ません。

例えば、医師は疾患を治療するにあたり、SOAPを用いて日々の診療を行い、カルテに記載しています。果たして、緩和医療・ケアを行う際に、十分活用できているでしょうか？

患者・家族の苦痛は、十分軽減出来るでしょうか？

常日頃何気なくやっているアセスメントを振り返り、明日からの臨床に役立てるために、この教育講演を企画しました。

どんなアセスメントの仕方をしたら良いか、基本の「き」、「一丁目一番地」、今一度見直してみませんか？

フロア参加型症例検討会 困難な症例にどのように援助するか？

本事例は、訴えの少ない終末期患者さんへの関わりが「本当に良かったのか？」を問い直すものです。

「患者の意向を最大限尊重して、緩和ケアの方針を決定する」

この言葉で説明がつくほど、緩和医療は単純ではありません。

このセッションでは、実際に緩和ケアに携わった医療者（演者）の葛藤と苦悩を、症例を通して参加者とともに追体験し、より良い関わり方や判断とは何かを模索します。

時に深く悩み、もしかしたら“沼”にはまるかもしれません。しかしそれでも、一緒に考え続けたい・・・

おろおろする船頭（座長）と、わくわくする乗組員達（参加者）で、臨場感あふれる大海原（症例検討）へ、いざ出航しましょう。

シンポジウム アドバンスケアプランニングの今

アドバンスケアプランニング(ACP)は、その重要性を皆が認識しながらも、いざ実践となると「はて、どうしたら良いか悩んでしまう」ことが、偽らざる事実かと思います。

「ACPのシートは作成したが、どのように運用するか？」と迷っている事はないでしょうか。

この分野の著明な先生ですら、「ACPには時間と手間がかかる。一日中外来をやっていた・・・」と、黎明期の苦勞を語られた事を、今でも思い出します。

本セッションでは、ACPの最新の情報を整理していただき、ACPの実践に苦闘されている先生に、現場の実践と課題を生々しく紹介していただきます。

また、医師だけでは負担が大きいACPをタスクシェアするために、看護師がその話し合いに参加する試みに関してお話しいただき、基幹病院ではない中小病院でACPを導入・普及させる工夫を伺います。

このセッションが終わった時に、混沌としたACPの世界に一筋の光が見えたとしたら、企画者としてはこの上ない喜びです。

ヒントを見つけに、本セッションにお越し下さい！